



在京古高同窓会会報
第37号

〒113-0034
東京都文京区湯島3-20-9-707
佐藤清勝税理士事務所内
在京古高同窓会事務局
☎ (03) 5818-2670
FAX (03) 5818-26
URL <http://www1.ttcn.ne.jp/~furuko>
Email zaikyo-furuko@mx5.ttcn.ne.jp
発行責任: 曾根 研一
編集長: 亀井 明
印刷: (株)ケーヨー

郷里・母校

そして同窓会の一層の発展を

会長 三浦 澄能



皆さん、お元気にお過ごしのこととお慶び申し上げます。

この半年を顧みますと、先ず一月十四日恒例の古川四校同窓会の新年交歓会は、わが同窓会が当番幹事で総勢三百名近い盛況となりました。

特別出演の古高卒一流音楽家たちによる演奏は絶賛を博しましたが、彼等の活躍ぶりから母校伝統の底力を確信させられました。

雪降る三月一日には母校の卒業式に臨み、東京蛍雪賞を授与いたしました。二三八名の後輩たちが澗刺さりと落ち着きをみせて巣立ってゆく姿に、半世紀以上も昔の我が身を想い重ね、感ひとしおなものがありました。四月初め母校の男女共学二年目の入学式は二四〇名の新入生を迎えたそうです。

いつにない厳しい冬が去って首都圏の春も桜花が思いのほか順調に咲き誇り、観桜会を兼ねた同期の集いでは皆満足感に充ち懐かし

の校歌・応援歌に声を張り上げました。

郷里では三月三日をもつて一大プロジェクトの一市六町合併が実現し、「大崎市」が誕生しました。まもなく大崎市役所から合併に伴う本籍表示の変更通知が手許に届き、郷土の時流に感慨を新たにしました。

そして、実に七三%を超える投票率にみるように、熱い注目のなか初代市長選挙が激しく闘われ、四月三〇日の投票結果は伊藤康志氏の当選に決まりました。

我らの誇る大崎耕土の今昔を思い、我らを育んだ郷土の更なる発展を願って、新市長を中心とした自治体制に大きな期待を寄せずにはいられません。同時に、郷里に住む同窓諸氏らのご活躍を願い、在京の私どももまた声援を送り続けようではありませんか。

時の経つのは誠に早いもの、今

年も在京同窓会の総会が迫りました。私の四年間の任期も終わります。役員一同は常に会員の増大を心がけて楽しく明るく諸行事の活動を進めて参りました。

後継の会長については総会において皆さんにお諮りいたします。社会条件の変化から多くの課題を抱える時代ではありますが、高齢化社会の成熟とともに団塊の世代が定年期を迎える時勢にあつて、同窓会の更なる発展を皆さんと一緒に考えて参りたいものです。

新会長を軸として役員団の活動と会員皆さんのご協力に一層期待する次第であります。最後に、これまでのご支援に心から感謝いたしますと共に、ますますのご清祥をお祈り申し上げます。

(註: 新市長・伊藤康志氏は前・県議会議長、古川在住、小牛田農林卒、五八才)

お知らせ

平成18年度

在京古高同窓会定時総会・懇親会

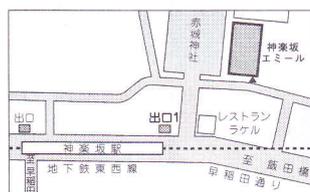
【日時】平成18年7月2日(日)
11:30~15:00

【会場】神楽坂「エミール」

【会費】8,000円

【講演】山本 照夫氏(古川高等学校長)
演題: 「古高の現況と未来」

【交通案内】地下鉄東西線 神楽坂駅下車
(神楽坂方面出口 徒歩2分)



神楽坂 財団法人 東京都福利厚生事業団
エミール 〒162 東京都新宿区赤城元町1-3
0817 TEL 03-3260-3251

在京同窓会メモ

- ・会計年度は4-3月、年会費は一口2,000円です。
- ・会の健全運営のため、振替用紙が同封された方には、納入をお願い致します。
- ・次回会報第38号は2007年1月1日発行予定、原稿は常時受付。

挨拶

古川高等学校長

山本 照夫



春の息吹の初々しさから一歩進んで、諸々の生命が大きく手を広げて成長しようとしているこの季節、在京同窓会の皆様には益々ご清祥のこととお喜び申し上げます。

この度の人事異動により、鈴木克之校長の後任として着任いたしました。県北第一の名門伝統校であり、復権の使命が課せられて、成果が現れつつある古高に着任して、責任の大きさを痛感し、決意を新たにしているところであります。微力ながら精一杯努めますので、よろしくお願ひ申し上げます。

着任して二ヶ月、若さ溢れ活気ある古高が展開されていますことを頼もしく感じています。共学化の二年目、定員二百四十名の内、昨年は九十名、今年は九十八名の女子が入学しました。

四月に行われた恒例の一年生の応援練習は、団長と幹部諸君の指揮のもと、男女共に声が嘎れんばかりの声出しから始まって、校歌、囀南歌、凱歌が、大きく響き、立派な応援団風景でありました。

校長室には四本の優勝旗が飾られています。昨年度インターハイ出場のソフトボール部のものです。昨年の県総体、東北大会、県新人、

そして、今年四月の県選抜大会のもので、今年八月の大阪インターハイ出場を期待しています。他の運動部も頑張っています。五月十三日、古川高と古川黎明高と古川工業高の三校合同演劇公演がありました。二十一日、吹奏楽部の定期演奏会がありました。いずれも立派なものでした。生徒達が沢山の場面で活躍しています。

今春の大学入試では大きな成果がありました。現役で、東北大四名を含む国公立大七十名が合格し、現浪計で八十二名でした。一時は国公立大現役合格十名台、現役進学率三十%台の時もあったのですが、ここ四年は、二十九名、四十六名、五十二名、七十名、そして、四十七%、六十六%、六十七%、七十五%と上昇し、名門古高復活の兆しとなりました。

県教委が平成十年度から立ち上げた進学支援プログラム事業、十五年度からのみやぎ高校いきいき夢プラン事業、十六年度からの進学指導充実支援事業をうまく活用できたこと、先生方の様々な創意工夫、努力に、生徒諸君がよく付いて行ったことが、これらの成果を生み出したと考えています。

しかし、古高の実績伝統を考えたとき、まだまだ十分な進学成果ではありません。更に教職員一丸となつて、古高の完全復活に向かつて努力精進を続ける所存であります。

男女共学になりましたが、「質実剛健」「学問尊重」「自主自立」の校訓は変わりません。同窓生の皆様には、母校古高への変わらぬ熱いご支援、ご協力をお願い申し上げます。

本部同窓会事務局だより

同窓生との
時の共有を通して

古川高校同窓会
会長 渡邊 義之



「船形おろしの雪消えて、大崎原頭かすみひき花爛漫の春くれば」と凶南歌に歌われている季節になりましたが、在京同窓生各位におかれましては、益々ご清栄のことと心からお慶びを申し上げます。

また、常日頃から三浦会長をはじめ、在京同窓会の皆様方からは、母校同窓会に対し多大のご尽力とご支援を賜っておりますこと心から感謝と敬意を表する次第であります。

不肖私も先輩諸兄の温かいご指導を礎に、どうか会長拝命以来その任に当たってまいりました。会長就任から九ヶ月が経過致しましたが、この間、色麻同窓会、加美町同窓会、岩出山同窓会、大阪同窓会、在仙同窓会、県庁古高同窓会、県庁古高大崎会、県立高校等の教員の同窓会である古高螢雪会、県警の職員で組織する県警螢雪会、そして在京古川四校友会の新年会等、多数の会に出席させて頂きました。

母校の行事としては、新体育館の落成式、それに卒業式とこの四月の入学式に参席致しました。

卒業式では、在京の三浦会長さんから東京螢雪賞を卒業生の代表に授与して頂くと共に、激励の言葉を賜りました。また、入学式では新入生に対し、古高生の誇りの象徴である螢雪賞を同窓会として寄贈したところであります。

これらの諸行事への参加を通して、私自身次の四つの感想を持ったのでございます。

その一つ目は、同窓生諸氏が母校に対して、いつも変わらぬ熱い思いをお持ちであることを感じましたし、同じ思いの方々と一緒に語らいの時を共有できた喜びであります。

二つ目は、同窓生諸氏が、各界各地においてその中核的リーダーとして素晴らしい活躍をされていることです。やはり、古高出身者は別格だという感を致しました。

三つ目は、母校の教職員が、全力を傾注して古高再生への努力をしている姿です。校長先生を始め、先生方のご努力に本当に頭の下がる思いが致しました。

四つ目は、在京四校友会でのアトラクションの中心が我が古高出身の音楽家であり、古高の教育目標である文武両道は今も見事に具現化しているなどの思いであります。

以上各行事への参加を通しての拙い感想を述べましたが、同窓会全体の組織力の強化とその基盤となる財政面で多々課題がございます。これらの諸課題を同窓生諸氏と共に解決し、理想的な母校に対するサポートのあり方を検討して参りたいと思っております。よろし

くご指導、ご協力をお願い申し上げます。終わりに在京同窓会の益々のご発展と皆様方のご健勝をご祈念申し上げご挨拶と致します。

近況報告



事務局長 大山 義男
(高三十三回)

平成十八年度古川高校は、新入生二百四十名(内女子九十八名)を迎え、新たにスタートしました。共学化を迎えての二年目、着実に古川高校の歴史が変わりつつあります。

入学式後、定期戦に向けて始めた応援練習も、今年は応援団に加え、生徒会執行部の女子が中に入り、しっかりとリードしていました。先輩が先輩を指導する姿、これこそが伝統を引き継ぐ姿なのだと思っております。

また、学校行事や部活動でも、着実に女子の活躍が見られるようになり、県下に古高女子部の名を轟かせるの間もなくかと期待されます。

さて、今年度の築高定期戦は、新たに女子バレー、女子バスケット、女子ソフトテニスの三種目を加え、五連覇をかけて計十六種目で対戦しました。

男子学年が残る最後の年ということもあり、生徒会長始め、応援団、一般生徒一丸となって臨んだのですが、あと一歩及ばず、残念ながら五勝十一敗で負けを期してしまいました。来年は女子が全年揃う年となります。必ずや古高の凱歌が再び大崎の地に響くことを期待いたします。(通算三十二勝十三敗三分)

さて、今春の卒業生の進路状況は昨年にも増し、素晴らしい成果を挙げる事ができました。国立立進学現役七十名(内、東北大学四名)と過去最高の進学率を達成しました。

上位国立立進学学校は山形大学十四名、岩手大六名、秋田、高崎経済五名、弘前、宮城教育、福島四名とそれぞれ続きます。

また、私立大学に於いても、二年ぶりの上智大学二名の合格者を始め、東京理科大学十五名、明治大、日本大、中央大五名と難関私立大学にも多くの合格者を出しました。

しかし、まだまだ古高生パワーを十分に発揮したとは言いきれません。更なる上位校への進学率を高めるべく、今年度は県総体までの時間を無駄にしないよう、七時半からの朝学習を取り入れられました。三年生の半数近くが参加し、進学意欲を見せています。

これから部活動では県総体や各種大会があります。それぞれ地区総体では好成績を挙げておりますので、県総体では文武両道を示すべく、きつと各種目で活躍することでしょう。そして部活動引退後も古高生の粘りで、これまで以上の成果を挙げてくれることを期待しております。

昨年度同窓会会長が替わり、事務局も新体制となりました。改めて同窓会の運営を行うことになり、様々な課題があることに気付かされました。

まず、総会の案内及び会報が全会員に渡っていない事です。これは、現在の当番年度の幹事制では全員にご案内申し上げるには無理があることです。

次に、同窓会の運営費が全て在校生の会費によって賄われていることです。在校生は入学時に準会員として三千元、卒業時に終身会員として三千元の計六千元を支払っております。しかし、今後会報を全員に送ることを検討するにしても、会の運営費全てが在校生の会費で賄われている現状には無理があります。

昔と違って現在は六クラスの三年学年分の会費しかありません。年々多くなる会員数に対して、現在の運営費では不足が生じて来ます。

今後は、年会費制の導入や、総会の参加者増加による運営費確保など、様々な工夫が必要ではないかと思われま。

今年度は名簿発行の年となり、十二月末の発行を目指して集約中です。この機会を利用して、全員皆様への総会のご案内が出来るよう、事務局始め、各支部の皆様といういろいろな方法を検討して行きたいと考えております。

同窓会の活動は各支部の皆様にお助けられながら運営されております。在校生の益々の活躍と同窓諸氏の親睦を目指して頑張る所存ですので、今後ともご協力ご支援の程よろしくお願い申し上げます。

東京 蛍雪賞

生徒会活動及び部活動を顕彰する本年の「東京蛍雪賞」は、三月一日の卒業式に三浦会長から遠藤拓海（生徒会長・鬼首中出身）・佐藤拓（応援団長・川渡中出身）両君に授与されました。

蛍雪賞を受賞して

遠藤 拓海

この度、蛍雪賞という素晴らしい賞をいただきありがとうございます。

私の古高での三年間はとても充実したもので、生涯忘れることのないものとなりました。部活動のスキーではインターハイ、国体等の大会に出場することができました。結果はあまり良いものではありませんでしたが、貴重な体験を



左から、遠藤拓海君、鈴木校長、三浦会長、佐藤拓君

することができました。

定期戦は連勝で三年間負け知らずでした。特に三年生の時の定期戦は綱引きで参加し、両手の皮がむけて大変でしたが勝つことができて、とても思い出に残っています。これも「質実剛健・自主自立・文武両道」といった古高に入学したからこそ得られるもので、古高生でよかったと思っています。大学では、勉強とサークルを頑張る、将来の夢に向かって頑張りたいと思います。

本当にありがとうございます。

古高での三年間

佐藤 拓

私の古川高校での三年間を振り返ってみると、本当にたくさんのお事がありました。男だらけの教室、朝の辛い応援練習、築館高校との定期戦、新しい授業に、新しい部活に、新しい仲間達。目に映る全ての事が真新しく、あまりにも吃驚した事を今でも鮮明に覚えています。そんな中でも自分でも一番驚いている事は、応援団に入った事でした。

私は割と引つ込み思考な方で、率先してそのようなことをするタイプではありませんでした。応援団の事も、興味は少々あったものの、自分から進んで入ろうという考えははっきり言ってありませんでした。そんな時に先生に誘われて入ってみようという事になったのです。

最初から最後まで私は他の学生からの好奇の目に怯えていました。応援団の活動を私は楽しいと感じ

ていたものの、やはりどこか他の学生の目が気になり、不安になるような事もありました。しかし、先輩が引退し、私が応援団長となったあたりから少し考え方が変わるようになってきました。

確かに他の学生の目は気になります。しかし、私がやらなければ他に誰もやる人がいない、私しか出来ない事であるのかもしれないという強い責任感が芽生えたので

特に私の代で男女共学となった事もあり、私が新しい古高の伝統を作るんだと言う意欲も湧いて来ました。そのことも少しあって、定期戦では大勝利を納め、大崎全土に響くような凱歌を歌うことが出来ました。

私のした事などほんのちっぽけな事でしたが、それを評価していただき、今回東京蛍雪賞をいただきました。これは私にとっても大きな勳章となりました。いろいろあつた古高での三年間、これを糧としてこれからも私は頑張っていきます。今までみなさん有り難うございました。

新校長 山本照夫氏 略歴

昭和二十四年 新潟県柿崎町生まれ
昭和四十七年 東北大学理学部物理学科を卒業し、同年宮城県教員となる
矢本高・仙台三高を経て平成十三年岩ヶ崎高校長、十五年水産高校長の後、本年四月より古川高校長となる
平成十七年四月より全国高体連ソフトテニス専門部長
二男一女と母の六人家族で、仙台市泉区に在住

同窓会長 渡邊義之氏 略歴

東大崎出身、昭和三十四年古高卒業
昭和三十九年 東北大学文学部西洋史学科を卒業し、同年宮城県教員となる。築館女子高教頭、志津川高校長、泉松陵高校長、県教育次長、仙台二高校長を経て現在、宮城学院女子大学教授。

平成17年度
進路状況

大学	学部	現役	小計	過卒	合計
北海道教育	函館	1	1	1	1
	室蘭工業	1	1	1	1
弘前	人文	1	1	3	4
	理工	1	1		2
	医	1	1		2
	農生科	1	1		2
岩手	工	6	6		6
	文	2	2		2
東北	工	2	2	1	3
	文	2	2		2
宮城教育	教育	4	4	1	5
	工学資源	4	4		4
秋田	医	1	1		1
	人文	1	1		1
山形	地域教育	3	3		3
	理	3	3		3
	工	3	3		3
	農	3	3		3
福島	人文社会	4	4	1	5
	人文	1	1		1
茨城	人文	1	1		1
	教育	1	1		1
群馬	教育	1	1		1
	農	1	1		1
千葉	電気通信	1	1		1
	電気通信	1	1		1
東京農工	工	1	1		1
	農	1	1		1

大学	学部	現役	小計	過卒	合計
一橋	社会	2	2	1	3
	経済	1	1		1
	上	1	1		1
信州	文	2	2	1	3
	繊維	1	1		1
国立合計		51	51	9	60
鋼路公立	経済	1	1		1
	経営経済	2	2		2
青森公立	総合政策	1	1		1
	看護	1	1		1
岩手県立	看護	1	1		1
	看護	1	1		1
宮城	事業構想	1	1		1
	食産業	1	1		1
秋田県立	シス科技	1	1		1
	シス科技	1	1		1
会津	コン理工	1	1		1
	地域政策	2	2		2
高崎経済	経済	3	3	2	5
	経済	2	2		2
首都大東京	都市教養	1	1		1
	国際総合	1	1		1
横浜国立	国際総合	1	1		1
	文	1	1		1
奈良県立	地域創生	1	1		1
	地域創生	1	1		1
公立合計		19	19	3	22
国立合計		70	70	12	82

大学	現役	現浪合計
石巻専修	14	14
東北学院	91	103
東北工業	15	15
東北生活文化	1	1
東北福祉	5	5
東北文化学園	5	6
高専学院	2	2
仙台	1	1
福島	1	4
文教	5	6
青山学院	2	3
学習院	1	1
国学院	2	4
駒沢	1	1
芝浦工業	4	4
工智	2	2
成城	1	1
先週	5	13
中央	2	2
東京農業	15	16
東京理科	1	3
東海	1	1
日本	5	11
法政	4	10

大学	現役	現浪合計
武蔵工業	2	2
明治	5	7
明治学院	1	1
立教	5	5
福泉	1	2
同志社	1	2
立命館	2	3

*私立大に関しては、宮城県内の私立大と主な私立大のみ

“アウトソーシングを支援する”

パルスタッフ株式会社

厚生労働大臣認可・人材派遣業（般13-300435）

代表取締役 渡 邊 道 雄

会長 S28年卒（鹿島台町）

本社 〒166-0002 東京都杉並区高円寺北2-4-7

ロータリービル6F

TEL 03-5364-5251 FAX 03-3330-7585

東京営業部（03-5364-5251） 神奈川営業部（0462-77-0791）

E-mail: m.watanabe@palsbk.co.jp

趣味三昧

特定非営利活動法人

日本刀剣保存会

みや の てい じ
理 事 長 宮 野 貞 司

S34年卒

〒142-0053 東京都品川区中延3-13-17

TEL・FAX 03-3782-5326

会員による自由投稿

創造と想像

造形美術家

昭和38年卒 宮本 信夫



古川高校美術教師穴戸章先生に師事し、夢の芸術の都・東京に来て42年、美術教育活動としてイタリアに本部を置くカトリックミッシェンスクール星美学園には38年勤務しました。

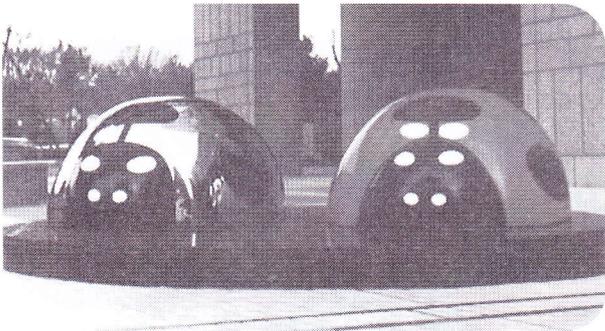
何の信仰を持たない私でしたが、朱に染まれば赤くなるので、宮本芸術の創造の原点・源は「星美の園」と言っても過言ではありません。それは星美での生活の中で色々な偶然の出会いがイメージとなっておりま。

第一に、初めに何があったかが謎で、みことば、祈り、叫びをテーマに描き続けた事。

第二に、トリノの大聖堂の壁画模写を通し、偉大な創立者、ドン・ボスコ・マリア・マザレロの偉業や生き方に会ったことです。偉大な人間ほど自然体であり、神の摂理の中で生き、人と人との

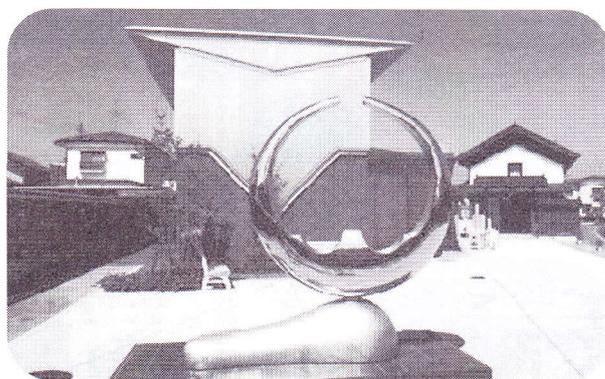
出合いを大切にしたこと、深く心を打たれたのです。

第三に、創作活動を通して、美しい物に超越的な神の存在を知ることができました。中でも偶然に出会った、キリストの受難を表すパッションフラワー（時計草）で、花の形そのものが、いばらや十字架、釘打ちまで備えています。次に、植物の世話をしている出会うた七星テントウ虫です。体育館の屋上でコスモスを育てていたある年、仕事が忙しく消毒する暇がありませんでした。さぞかし油虫などの害虫が大量に発生しているのではないかと覗いて見ると、なんとテントウ虫が沢山群がり、害虫を食べつくし、緑が豊かに成長し、消毒の持つ意味は何処にあったのでしょうか。自然の中では植物や昆虫は、上手に調和のとれた命の生き方をしていたのです。人間の身勝手な行為、便利さにまかせ



作品：テントウ虫

た知恵や創造によって、自然のバランスを崩壊していることに憤りを強く感じました。テントウ虫を優しく手のひらに乗せ、感謝をこめ鑑賞してみると、単純な造形、鮮やかな色と七つの点で構成され、シンプルな抽象美を誇っています。見れば見るほど、心がふるい立ちイメージがわき創作しました。日本では天道虫で、天と地を繋ぐ虫、西洋では天に向かつて清純に飛び立つ虫で、聖母マリアの象徴とあがめられています。また木彫りなどを通し、素材に自分自身を委ね、同体になった時、超越的な美（創造）と遭遇することです。こうして長い間、星美の中で創作活動を続けていると、自然と多くの出会いなくして創造の世界はありません。トルストイの言葉に「大空のもとで、自然の教えを聴きなさい」とあります。大空のもとで自然の神秘を感じることが、創造の道なのかも知れません。天上には生命の根源のような雲の姿、地上には四季折々の自然物、それらの物に自分自身を委ね、清い目、清い心でじっくり見ること、また五感（視、聴、嗅、味、触）で感じるにより、新しい世界を想像することです。逆に目を閉じて、よく聴く、そうすれば新しい色、形、また音（精霊の声）が聞こえてくるでしょう。ドン・ボスコも情熱的に創作活動を行い、寛容で誇らず、たかぶらず謙遜に生きた創造者です。出合いは摂理です。よき出合いを大切に創造豊かに生きたいものです。テントウ虫は、東京都庁に世界への夢と希望の発信地のモニユメ



作品：緒絶江の館

こととして永久設置されています。昨年夏十五年ぶりに石原慎太郎知事の協力で、修復工事が行われ、一新しました。共に喜び、共に生きる平和の光として蘇りましたの是非鑑賞願います。また今年、那須に世界一小さい「1064美術館」と「のおお工房」を、古川宮澤の自然環境で60年生育した杉材を製材し、建築予定で

この空間は自然豊かな場で創作を行い、共に精神（内面性）の向上を目指し、共に喜び、共に住きる自然体の場（空間）であります。宮本芸術の真髄は自然に優しく、美しい物を共に美しく感じ、美しい社会・美しい世界を創造していくことです。

諸先輩、後輩同窓生の皆様、完成しましたら鑑賞ともどもお立ち寄りしてご利用願います。
URL <http://www.geocities.jp/miyamoto1064/>

日曜大工園芸用品卸 貸ビル、貸マンション業

株式会社 佐々木商事 代表取締役
株式会社 アクアベンドジャパン 代表取締役副社長

佐々木 光一路 (昭和33年卒)

〒144 東京都大田区南蒲田1-1-21 佐々木ビル
-0035 第一京浜国道沿い京急蒲田駅前
電話 (3739) 2468
FAX (3732) 7700
HOT Line 090-3202-6393

税理士 青沼康男
不動産鑑定士

(昭和19年卒)

〒108 東京都港区芝4-6-16 ライオンズ三田805
-0014
TEL 03-3452-2004
FAX 03-5476-8006

春のうららの船遊び 第七回在京ぎやろっば会 昭24年卒 門脇 健

「春のうららの隅田川……」。第七回在京ぎやろっば会(旧古中四十八回・古高一回卒の会)は3月29日、仙台から在仙古高同窓会会長の高橋勝夫さん、古川から渋谷喜光さんの特別参加を得、在京の石井達郎、我孫子静夫、伊藤敦、鈴木大吉、斎藤馨、熊谷文男、菊地郁夫、早坂悌、菅昇、三浦澄能、門脇健の皆さんと合わせて13名が参加し、J・R浅草橋近くの神田川岸から江戸の風流を今に伝える屋形船を一艘借り切つて行われた。

午後4時に船宿に集合して出発。ちよとが桜が満開に近いとあって隅田川を上って隅田公園兩岸の桜を見てUターンし、江戸・東京の経済、文化、生活の大動脈であり、生命線でもあった隅田川を下り、構造美を誇る十六橋を目的のあたりにしつつ高層ビルが立ち並び、或いは親水公園的に整備された兩岸を目を見張る。

そんなこんなしているうちに勝鬨橋を過ぎてお台場海浜公園―レインボーブリッジ周辺にて停船。ここで、船内で料理されたあつあつの江戸前のお天ぷらや刺身が大皿に盛りだくさん出される。



「在京ぎやろっば会」の風流な船遊びのスナップ

日頃は糖尿だ、高血圧だと「自粛している皆さんも積極的に箸を動かし、杯を傾けながらライトアップされたかのような大東京の夕夜景を満喫。

また、高橋さんの「在仙古高同窓会の動向と同期の仲間たち」といった話や、石井さんの「自分史的な半生の思い出物語」といった説話を耳を傾け、引き続き応援歌を唄ったりして氣勢を上げ、もう喜寿を迎える「じい様族」とは思えない健在さ……。

躍動する昼の風物、夕暮れの美しさ、夜景のすばらしさ……ダイナミックに展開する大東京を眺望観賞しつつ、戦中・戦後派らしく「おいらが東京に来た頃はな……」とか、「あの辺はこうだったな」と口に出る場面も……。

かくして午後6時30分頃、粋と風流の船遊びは終了し、下船となったが、それにしても江戸開府以来四百年余の江戸・東京のフェニックス(不死鳥)的な生命力、発展的なエネルギーを実感させられた二時間半でもあった。



隅田川十六橋と航路要図

この大都市のたくましいエネルギー源は何か。そのDNA(遺伝子)とはどんなものか。そういったことまで考えさせられたひとときでした。

よみがえる青春 昭30年卒 岸 康男

4月8日(土)午後4時J・R上野駅公園口に三十年卒同期生18名が集合し、先ずはお花見と、薄日指す上野公園へと向かう。

春の陽光を浴びながら桜並木をゆつくりと散策し、途中桜をバックに平野武さんによる記念撮影をした後、不忍池にほど近いセントラルビル7Fにある会場の「植むら・しのばず庵」へと急ぐ。

同期会は曾根研一さん指揮による校歌斉唱に始まり、渡辺吉郎さんの物故同期生への黙祷、岩城光将同期会会長の乾杯の後、歓談に入る。

日本料理を肴に、故郷の話、古高時代の友のことなど話がはずみ、ゆつたりと時間が流れたセピア色の青春がよみがえる。

話題は近況へと進み、高崎から参加した佐々木豊さんの近況報告と温泉めぐりの話があり、秋の同期会は群馬の紅葉狩りに決定した。

これで岩城会長の提案通り春は花見、夏は在京同窓会、秋は紅葉狩り、冬は四校合同新年会と年間スケジュールが出来た。

春の宴は盛り上がり、瞬く間に時間が過ぎ、名残りを惜しみつつお花見会は閉会となり、互いに再会を楽しみに散会した。

その後、佐々木英三さんの案内で二次会へと続く。

今回の参加者は以下の通り
岩城光将、佐藤忠良、瀬戸順悦、高橋広、佐藤久、佐々木豊、佐藤輝久、平野武、尾崎光彦、中沢丙吾、星瑞穂、渡辺吉郎、相原相、佐々木英三、曾根研一、横山武、門脇喜代志、岸康男(敬称略)
尚、今回参加できなかった三十年卒同期生の皆さん、是非次回、同期会への参加をお願い致します。



昭和30年卒首都圏在住同期会

関東九高会定期総会 昭32年卒 佐藤 満行

つ、遠路古川から馳せ参じた近江健次さんの激励を兼ねたあいさつと続き、議事も佐々木勝也さんの議長で進行、質疑等もなく無事終了した。

懇親会は、大森英樹さんの声高らかな音頭で乾杯、飲み放題の会場は、飲食とともに各々の懇談となり、故郷のこと、母校古高の思い出に花を咲かせ、座も和んだころ、近況報告を順番で行った。現役の者は仕事の話、他は地域活動、健康管理、趣味等、話題は多種多様であり、これが有意義な情報交換となり、更に盛り上がった。

あつという間に予定の時間も過ぎたので、全員来年も元気で再会できることと、この会の発展を祈念するあいさつをした阿部功二さんの本締めでお開きとした。

一次会の余韻が残る中、ほぼ全員が参加し二次会へ、芸達者な同期生は各自が十八番のど自慢大会となった。

正午から始めたこの会も夕方まで、大変有意義な時間を過ごすことができた関東九高会総会でした。

平成十八年度関東九高会(昭和三十二年卒関東在住者同期会)の定期総会を三月四日正午より出席者十九名、J・R両国駅前の日本海両国店で行った。定期総会は、例年通り一部総会、二部懇親会の順で行う。

総会に先立ち、物故者に対する追悼の黙祷をして、ご冥福を祈った。総会は全員での校歌斉唱で始まり、会長の佐藤公哉さんのあいさ



関東九高会定期総会・懇親会

ふるさとには 遠くにありて：： 昭30年卒 浅野和夫(在米)

在京同窓会事務局からの「何か書いてみませんか」という誘いにうっかり乗って、ついお引き請けは致したものの、所詮、妙案など浮かんでくる筈もなく、所用で泊まったシアトル空港近くのホテルで、思いめぐらす思案は、いつもと同じ感慨に戻っておりまして。

さらさら乾いた雪が路面をかすめて流れるミネアポリスのハイウェイを訪問先に向かっている時、オハイオ州某市の商工会議所の会合で番外のスピーチをいきなり求められ、冷や汗三斗の思いで、なんとかこなして着席した時、マンハッタンの喧騒が嘘のようなセントラル・パークの静寂の中に佇む時、そんな時いつも湧いてくるものは、「俺はいつたいどうしてこんな所にいるのだろう」という思いでした。誰のお陰でこのような場所に居る幸運にめぐまれたのであろうか、という思いです。

一九六四年に初めてアメリカの地を踏んで以来、折に触れて湧いてくるその思いは、いつもすぐ奥師への思いにつながります。

数多くの恩人の中で、私の人生に最大のインパクトを与えて下さった恩師が二人おります。

一人は、斎藤秀三郎、もうひとり は母校古高の富士裕先生でした。斎藤秀三郎は、私如き者が軽々しく口にするこすら恐れ多い日本英語学会の巨人ですが、高校時代から斎藤の本、特に彼の辞書に耽溺していた私にとっては、その存在は仰ぎ見る一大先達でした。

その斎藤の世界・英語の世界に目を開かせて戴き、いびなつて下さった

の方が富士先生でした。年、英語圏に暮らし、何とか英語を見過ぎ世過ぎの具にすることが出来るようになったのも、まったく富士先生のお陰でした。

そのような思いを抱きながらも、高校卒業以来一片のお便りすら差し上げなかつた私が、数年前、不躰にも先生を古川のご自宅にお伺いし、再会を果たせたことは無上の喜びでありました。住めば都、とは謂うものの、人種のるつぼの中に自らを投じ、この地を「終の棲家」とまで決めるに至つたのも運命的なことではありまして。

英語で送る日々とは云え、語学力の拙さは未だに恥じることも多く、新聞記者生活五〇年の後、最近第一線を引かれたアメリカ人の友人相手に、まさに物書き本職の胸を借りながら英語の総点検に努めている昨今です。

まことに、「日暮れて道遠し」ではあります、そんな励みの原動力になつてくれるのも、高校時代の恩師との出会いであることを思うにつけ、あの時代がなんともありがたく且つ懐かし、「ふるさととは遠くにありて思うもの」との感慨にふけることしばしばであります。

会員通信

●野村君が同窓会長をやめたので、恐らく今回限りの出席になります。古高出身者のコンサートを楽しみにしています。

●事務局関係の皆様にはお世話になります。四校合同は知っている人に会えるのでよい。特に今年はコンサートが楽しみです。(S18大家吉志)

●昨年(16年)、肝臓癌がみつきり現在治療中です。幸い早期発見でしたので、順調に治療すすめています。近頃はいろいろながことが次々と起きます。悲しいことや、腹立たしいこと。(S20佐々木一司)

この他四つの俳句会、マスター学院(市民大学のあと有志で)、市の歴史会、輪を揃いで飲む輪学会、ランドゴルフと、やはり出た切り老人です。(S26鈴木佳吉)

●一月十四日(新年会)は先約があり残念です。新春コンサート…聴きたかつたです。又の機会を楽しみにしています。(S27菅井 一)

●何とか平和な時代に生きることができて幸でしたが、又、雲行きがアヤシクなってきました。何度くり返せば済むのでしょうか。最近の心境です。(S28藤澤了幹)

●幹事様いつも御苦勞様です。自分の健康は自己責任です。毎日のラジオ体操や自己流のスポーツに力を入れています。今後も年齢相応の体力を維持したいと思えます。(S29岩淵瑞穂)

●会報三十六号頂戴しありがとうございます。新年会も仕事の関係で欠席となり残念です。心よりご盛會をお祈りしています。(S29小野賢次)

●同郷の会員に法を犯した者がおり、意気消沈の日々を送っている。(S29菊地 務)

●幹事様ご苦勞様です。IT系の仕事を継続しますが、一方、趣味の音楽・読書・旅行と多忙な日々を送っています。(S29佐藤郁郎)

●味の妻社定年後、現在、日大で卒論生の指導しています。古高時代の男声合唱から、現在も藤沢男声合唱団で海外(アメリカ・ドイツ・ギリス等)で演奏しつづけています。今年(17年)は藤沢市民オーペラで娘(ソコ)と一緒に出演しました。一方、食品の微生物制御コンサルタントとして指導しています。(S29瀬戸 光)

●耐震強度の偽装に、後輩が関係しているのは、誠に残念です。(S29高橋 泡)

●第三十六号でお知らせいただいた、九月二十七日に他界した三十年卒三浦哲夫の兄です。生前にいろいろ迷惑をおかけしたり、また大変温かい交友やお世話を賜りまして、故人に成り代りまして厚く御礼申し上げます。私自身も夏前後に大病を患いましたが、回復も順調で、弟の分も余分に長生きをするつもりです。(S29三浦憲一)

●新年会及び新春コンサートを楽しみにいたして居りました所、一月に白内障手術の為入院故(新年会を、欠席の程、返す返すも残念に存じます。御盛會を祈り上げます。(S30尾玉律夫)

●NHKの歴史八十五年のうち、四十五年間、報道一筋に歩みました。今、自分らしく生きることは、どんな行動をすべきかを模索中といったところで、楽しく打

をモットーに開基に取り組んでいます。(S30木村哲彌)

●昨年(16年)暮の心筋梗塞入院手術以来、体調は必ずしも万全ではありませんが、日常生活は通常です。(S30佐々木清七)

●古高卒業生にこんなに沢山の音楽家がいるとは驚きました。今回は(新年会)ぜひ参加したかったです。今回は(新年会)で残念です。(S31相澤昭男)

●当日(新年会)の予定が先に決つていて、生演奏が聞けず残念です。前に聞いた事が、いまだに覚えています。(S31石川勝夫)

●民謡法涛会、江差追分会、日立桑の実会支部事務局、公民館民謡の会幹事として連日出歩しています。(S33小堀 勉)

●兄・弟から新年会模様を聴くのがたのしみです。(S33今野 聡)

●退職後、画家として行動しております。(S33岩原富男)

●名古屋市在住につき、はじめてS33卒の大山、大友、森谷を通して、在京古高同窓会の盛んな活動を知りました。リタイヤした身ですので、機会がありましたら出席させて頂きます。ご案内ありがとうございます。(S33結城睦夫)

●肺氣腫に苦しむ年々何とかな生きて居ります。今は、昨年(16年)授かっていた孫娘の成長を楽しみに、平穏な年金生活を送ろうと考えて居ります。(S35内田将夫)

●87番目の国立大学・筑波技術大学が一月一日に開学し、初代学長に就任いたしました。「つくばエクスプレス」では是非立ち寄り下さい。ご案内します。(S35大沼直紀)

●小嶋、姉衛問題はなげかわしい一言。この背景が悪い意味での「郷土つながり」でないことを願うのみです。(S35中鉢育文)

●健康食品と経営コンサルタント(食品工業部門・運営、工場診断、食品の品質管理、廃液処理等全般)の会社を神田駅JR西口から一分のところにはじめました。千代田区内神田3-4-13 OK内神田ビル2F (S35)トキノコーポレーション 代表取締役 我妻 一美)

●中国勤務も二年目に入り、来年七月迄は仕事を続ける予定です。今のところ健康体ながら63歳。異国の地で異文化を楽しむながらの生活も良いものです。(S36大曾根秀憲) II これは私(妻)から見た主人の様子です。(S36折田 孝)

●楽しみにしていましたが、今回(新年会)は私の住んでいる林中学校で、男声合唱の演奏会と重なり出席できません。年々開催日が早まったり、土曜になつたりして困ります。前のように一月末の日曜日にして下さる事を強く要望します。(S36菅野俊次)

●駄洒落川柳を一つ。(Hui) イヌイット(犬1頭) 氷に願う獲物くれ。昨年、愛知万博(地球博)をたつぷり見た。地球温暖化で流水に乗ってアザラシ等の餌がなく、人と犬のバトルが続く、Stop the CO2である。身近なところから取り組もうと頑張りたい年です。(S36菅泉 徹)

●「蜜雪」を大変楽しく読ませて頂いております。本誌を通じて母校・郷里に思いを馳せております。(S36長井 清)

●シチズン電子株式会社の社長をやっています。(S36折田 孝)

●同窓より、とんでもない卒業生が輩出されたことに対し怒り心頭、学校の恥さらし、非常に残念。(S37六角 孝)

●登山仲間募集!! 菊造り、登山、マラソン etc. でガンパッテます。長野マラソン大会5回連続出場して行きます。制限5時間以内迄、挑戦して頂きます。(S37渋谷 孝)

●コバケンの第九。チェコ少年合唱隊のアメリカンングレース。明日(二十日)17年は千住真理子さん。新年の音楽会楽しみにしております。久しぶりに(新年会)に出席させていただきます。(S37千坂孝夫)

●古川出身者としては失意泰然と過すしかない最近のニュースです。(S38厚生労働省那覇検疫所長(阿部重人) 田舎生活が一年過ぎました。元気で色々な野菜を作っています。一番残念なのは、ヒューザーの小嶋進が後輩であるということです。儀装問題に関係無いことを祈っています。(S38狩利夫)

●私もコンサート等をやっておりますが、今、世間を騒がせているマンション・ホテル耐震儀装問題は、小嶋氏が欠く重要な事件です。古高OBの、小嶋氏が欠くOBの姉衛氏の勇気ある真相説明への説明責任を期待したい。(S38斎藤秀樹)

●在京古高同窓会の役員の方、お役目大変御苦勞様です。四校の合同新年会にはなるべく出席するようにしています。それにしても、参加してくる同級生が四五人止まりなのは、淋しい限りです。(S41独)動物衛生研究所高橋秀之)

●私も、中学校の同級会(在京)の幹事をやっていますが、本当にボランティアの精神がないとやっつけられません。いつも案内、ありがとうございます。(S41埼玉県警察本部科学捜査研究所 藤井 欣二)

ドイツチェ先生を悼む



故 高橋 養先生

恩師・ドイツチェ先生には、本年一月一日に永眠されました。享年八十二歳でした。

一月十九日の葬儀には東京から、野球部OBの佐々木恭二先輩（S38年卒）、私・中鉢が参列しました。葬儀では、昭和三十七年の明治神宮野球大会に東北代表として出場した古高三十八年卒の宮本文寿先生（古川学園高校の元教頭）が弔辞を述べました。

「ドイツチェ先生の訃報を知った時、古川高校野球部の事とドイツ語の授業のことが、我々教え子の脳裏に甦ったのではないかと思っています。」

ドイツチェ先生には古川高校時代忘れられない古高野球部の思い出があると思います。

先生は野球部の監督を八年程続けられました。其の中でなんと云っても古川高校野球部を全国大会まで連れて行くことが出来た手腕は輝かしく、古川高校の歴史に残るものだと思います。

昭和三十七年三月末に開催された全国高校野球明治神宮大会に東北代表の名監督として采配を揮われたのですから。

先生は監督を引受けるまでは野球はまるっきり素人でした。しかし野球に対する情熱と意気込みは

物凄いいものがあり、精神野球そのものでした。

いまでも、先生の百本ノックの時の選手に対しての励ましの気合である『気持ちだ気持ち』の掛け声が聞こえて来るようです。

また野球以外の事でも野球部員には服装言葉使いには大変厳しく野球部を卒業しても立派な社会人になって欲しいとのドイツチェ先生の願いだったと思っています。

それから先生は非常に記憶力が優れていて野球部はもろろん、一般の卒業生の名前も何年たってもよく覚えていた先生でした。

そのような事もあり男子高校ながら古高卒業生のドイツチェファンは大変多かったのだと思います。

それから先生は大変な哲学者であり、我々が卒業してどうにもならない悩みがある時に相談に行くところ、一刀両断のごとく所謂ドイツチェ哲学を説いてくれました。

高橋養先生、先生は全生涯を懸けられ我々教え子を指導して下さいました。

その様な先生が他界され、これからどうしようかと悩み、人生の師を失ってしまったて呆然自失している教え子が大量にいると思います。先生どうか天国から我々教え子を今まで通り叱咤激励して下さい。高橋先生、どうか安らかに眠り下さい。

葬儀終了後、急遽別会場を設け、「ドイツチェ先生を偲ぶ会」を行いました。野球部の先輩・後輩を中心に二十数名が参加し、改めて在りし日の先生のお姿を偲び、今後もこの会を継続しようということになりました。

(S37年卒 中鉢泰平)

心よりご冥福をお祈りいたします

- 青野 昭男氏 (昭20年卒) 平成17年8月11日
- 新棚 亨氏 (昭26年卒) 平成16年4月20日
- 菊地 隆夫氏 (昭27年卒) 平成17年12月26日
- 川口 勝氏 (昭32年卒) 平成17年8月8日
- 駒板 貫史氏 (昭35年卒) 平成16年10月8日
- 高橋 詔二氏 (昭35年卒) 平成18年3月28日
- 名取 四郎氏 (昭36年卒) 平成17年10月5日

編集後記

年度初めから連休前後のお忙しい中、関係者の方々には原稿作成にご協力をいただきまして発行にこぎつけることができました。御礼申し上げます。

長年の懸案である若年層の会員開拓は残念ながら、うまくいってありません。

先日、若年層で流行の「ミクシィ」の古高OBコミュニティで在京古高同窓会を知っているかどうか聞いてみましたが、知っている人はほとんどいませんでした。

今後はインターネット上だけではなく、様々な機会をとらえて、在京同窓会の存在をアピールしなければならぬと感じました。

また年二回の「蜚雪」発行だけではなく、メーリングリスト等を使った会員相互の情報交換が図れるしくみを考えたり、「ミクシィ」を利用したオフ会形式の集まりを、試験的に実施したいと考えています。(亀井)

情報処理のエキスパート 完成図書・デジタル化総合サポート

専任スタッフ・有資格

CALS/ECインストラクター	4名
電子化ファイリング	5名
ファイリングデザイナー	2名
文書情報管理士	5名

電子納品作成支援
おまかせください!
導入から成果品まで専任スタッフがきめ細かく対応しバックアップいたします。

代表取締役会長 **早坂清吉** (昭和29年卒)

株式会社ケーヨー <http://www.keyo.co.jp> E-mail: info@keyo.co.jp
本社 〒103-0023 東京都中央区日本橋本町 4-1-6
☎03-3242-0191 FAX03-3242-0167

佐藤 啓三 (S40年卒 中新田)

中小企業診断士・ISO審査員・エネルギー管理士

KGK ISO (品質・環境)・技術・経営
コンサルティング・グループ
株式会社 経営技術機構 所属

〒105-0001 東京都港区虎ノ門5-3-20 仙石山アネックスビル1階
TEL 03-5425-2491 FAX 03-5425-2492
自宅 〒241-0004 横浜市旭区中白根2-22-19
携帯 090-1438-9132 E-mail FZN04730@nifty.ne.jp

あなたの夢を実現するためのお手伝い

中鉢 泰平 (昭和37年卒)

1. 宮城県玉造郡鳴子町川渡村黒崎出身、古川高等学校(野球部)卒業後、京都の大学で海外事情研究会所属
2. 大学卒業後東急航空(現東急観光)時代から国内・国際社会を舞台に現在まで世界旅行業界歴40年間
3. 特にすぐれた世界の教育・医療・福祉をふくむ各業界の専門分野の視察・研修を手がけ情報を提供し、みずから添乗も行ってきた。世界文化遺産からその国々の観光から体験学習などの国際交流、学会など六か国語を駆使し、あらゆる国々をめぐる、添乗(ツアーコンダクター)回数300回を超える
4. 長年の旅の出会いにより、日本全国に親愛な顧客を持ち、世界各国に多くの友人知人を持っている
5. 旅を通じ国内世界を問わず、人との出会いを大切に思い、現会社を設立し、代表取締役社長を勤める
6. 日本イタリア連絡協議会理事・在京鳴子町人会代表・在京宮城ふるさと協議会常任理事・みやぎの夢クラブ常任理事・(財)日本さくらの会会員やふるさと小・中高同窓会幹事及び大学同窓会役員を務める

Mottoー

- 旅の安売りは危険、安心安全が第一そして旅から多くを学ぶこと
- 机上の安売りプランではなく、足であるいた経験のプランを提供
- 人生は旅のようなものであり、旅もまた人生のようなものである

株式会社インターナショナルヒューマントラベル 〒164-0001 東京都中野区中野2-29-15-204
TEL・FAX 03-5385-3693